

Title	オフィスにおけるパーソナル・コンピュータ導入の問題点と有効利用に関する提言
Sub Title	
Author	野村隆治(Nomura, Riyuuji) 柳原一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第631号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0631">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0631</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

野村隆治

主査 柳原一夫

(エッソ石油株式会社)

副査 伏見多美雄

所属ゼミナール 柳原一夫 研

滝沢 茂

## オフィスにおけるパーソナル・コンピュータ導入 の問題点と有効利用に関する提言

現在、OA化の進展にともない、オフィスにおいて、パーソナル・コンピュータが急激に増えつつある。しかし実際には、ソフトの貧弱さ、教育の難しさ、またホスト・コンピュータとの連携不足等によって、いま一つ有効利用されているとは言い難い状況である。

従来のように一部の人間だけがコンピュータを使っている状態では、これからの厳しい企業環境の中で勝ち残っていくことは難しく、今後はオフィス全員がコンピュータを使い、いわば一人一人が情報基地となっていくことが競争の前提条件となっていくであろう。

これまで一部の人間にしか利用されていなかった理由は、システムが先行し過ぎて、ユーザーの使いやすさといったものが無視されていたためだと考えられる。しかしこれからのオフィスにおいては、コンピュータに関して素人がエンドユーザーとなってパソコンを使うようになるわけであるから、ユーザー・オリエンテッドなハード/ソフトでなければならない。

今後は、トップ・マネジメントを巻き込んだ形でのOA/パソコンの導入を考え、その中でユーザーの使いやすいパソコン、そしてそれをサポートする仕組みを作っていく必要がある。